

# 常滑の1周タイムは4コースに注目!

▼コース&1周タイムランク別の1着回数

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
1コース	788回	275回	137回	100回	56回	23回
	1,210回	498回	265回	194回	107回	53回
	65.1%	55.2%	51.7%	51.5%	52.3%	43.4%
2コース	83回	72回	46回	35回	18回	12回
	368回	488回	429回	364回	307回	206回
	22.6%	14.8%	10.7%	9.6%	5.9%	5.8%
3コース	55回	37回	39回	31回	28回	12回
	267回	323回	403回	430回	393回	280回
	20.6%	11.5%	9.7%	7.2%	7.1%	4.3%
4コース	46回	37回	49回	45回	29回	23回
	231回	298回	362回	373回	396回	306回
	19.9%	12.4%	13.5%	12.1%	7.3%	7.5%
5コース	16回	15回	22回	31回	12回	16回
	199回	208回	300回	343回	377回	336回
	8.0%	7.2%	7.3%	9.0%	3.2%	4.8%
6コース	16回	4回	3回	3回	4回	0回
	207回	231回	257回	284回	319回	362回
	7.7%	1.7%	1.2%	1.1%	1.3%	0.0%
総計	1,004回	440回	296回	245回	147回	86回
	2,482回	2,046回	2,016回	1,988回	1,899回	1,543回
	40.5%	21.5%	14.7%	12.3%	7.7%	5.6%

表の見方



※データは2023年  
 10月12日～2024年  
 10月12日を集計

## 風と常滑と1周タイム

今回研究する常滑は、比較的1コースの1着率が高い場として知られている。しかし、海側から吹く北西の風(スタートラインに対して向い風)が強まると、状況は一変する。スリットが乱れやすくなり、2〜4コースが台頭するケースが増える。日によってはイン逃げがまったく決まらずに、なんてこともあり、攻略のしがいがある水面といえる。

そんな常滑における1周タイムランクとコース別の着順の関係を詳しく分析した。オリジナルタイムの中でも、常滑では展示タイムと着順の相関が低く、まわり足タイムや1周タイムの影響が大きい。この特性を踏まえると、1周タイムを軸にしたレース予想が有効な場といえるだろう。

とはいえ、実践的に舟券を組み立てる際には、風の影響をどこまで加味するかポイントになる。特に、あまりにも風が強い日はタイムのばらつきが大きくなりすぎるため、1周タイムのデータを鵜呑みにするのは危険だ。データ分析に頼りすぎず、臨機応変な判断も必要になる。常滑攻略のカギは、データと現場感覚のバランスをどう取るかにかかっているのかもしれない。

## 4コースがカギ!

まず、1コースの1着率は年間平均で58.0%と高い数値を誇るが、1周タイムが1位の際には65.1%まで上昇しており、やはり1コースの安定感に際立っている。ただし、1周タイムが下位になると勝率が大きく落ちるわけではなく、全体的に高い数値を維持しているのが常滑の特徴だ。

そして年間平均での2コースの1着率は12.2%、3コースは10.4%と全国的に見ても平均的だが、1周タイムが1位の際にはそれぞれ22.6%、20.6%と、ほぼ2倍近くまで上昇する。特に2コースは、他の研究した場と比べ大きく向上する傾向が見られた。

今回のデータで最も注目すべきなのは4コースだ。年間平均の1着率は11.4%から1周タイムが1位の際には19.9%まで急上昇している。これは今までの研究ではほとんど見られなかったレベルの伸び幅であり、2倍近い上昇は異例といえる。さらに、1周タイムランクが2位・3位の際でも1着率は12.4%や13.5%と安定しており、これまでのデータと比べても非常に強い傾向を示している。

4コースの1周タイムに注目しながら穴狙いをするのが常滑攻略のカギになるかもしれない。